

アクセサリ作りワークショップ

来訪者は松右衛門帆布を使った小物入れを作ることができます。地元出身の実業家で発明家の工楽松右衛門（1743 ～ 1812 年）は、自身が発明した織機を使用して丈夫な木綿製の船の帆を作りました。極太の綿糸を使用した織り方で強度と耐久性に優れ、江戸時代には日本全国に広まりました。現代に適応された松右衛門帆布は、その耐久性、軽さ、耐水性を生かして帆だけでなく鞆などにも使われています。

この 30 分間のワークショップは、松右衛門帆のバッグやアクセサリを販売する織りと縫製の工房「御影や」の敷地内で開催されます。展示されている松右衛門帆布のアイテムはすべて、店の奥にある工房で、来場者に工房の案内をする職人の一人によって手作りされています。

説明は日本語ですが、簡単に理解できます。キャンバス素材はあらかじめカットされているので、リベットを打ち込むだけでカードケースの側面を固定できます。ワークショップには一度に最大 6 人が参加できます。大人の監督下であれば、3 歳以上のお子様も参加できます。料金は 1 人 500 円で、参加者はカードホルダーを持ち帰ることができます。予約が必要です。ワークショップへの参加は、work_shop@takasago-tavb.com までメールを送信するか、高砂市観光交流ビューローホームページからお申し込みください。